



世界につながる力がつきました

学部の専門性と語学を伸ばすGCPだからできる学び



野見 彩珠

経営学部経営学科3年

大阪府 私立・関西創価高等学校

私はGCPの学びを通して自分自身の興味をより深められたと感じました。日々の授業では、英語をツールとして客観的に、多角的に物事を見ることの重要性を知りました。さらに、様々な学部の仲間たちの意見に刺激され、自身の知識をより広げることもできました。これからも、経営によって生活をより良くできるのかという興味を軸に学んでいきます。



近藤 良美

文学部人間学科4年

東京都 私立・創価高等学校

地球規模課題への解決策等についてグループワーク等を通し学び深める中で、自身の視野を多角的に広げられました。それらは2年間のプログラム修了後の留学においても生きていたと感じます。今後も学びを深め、将来は、身近なものを通じて人々に世界を親密に感じてもらえるような仕事をしながら、平和を生み出す文化の創造に貢献します。



川上 賢一

法学部法律学科4年

兵庫県 県立・兵庫県立大学付属高等学校

GCPでの学びを通して、それまではどこか遠い問題のように感じていた社会課題が、実は自分と繋がっていることを実感しました。特に私は、生まれた場所が異なるだけで可能性が狭められる現実に問題意識があるため、その格差は正に貢献できる人材へと成長していきたいと考えています。

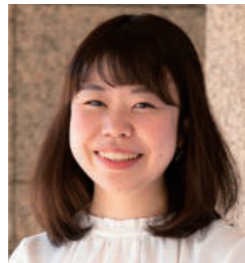


和智 直人

教育学部児童教育学科4年

大阪府 私立・関西創価高等学校

GCPでは、多様な専門性を持つ学生と共に日々切磋琢磨しながら勉学に励むことができ、社会の問題を様々な視点から客観視する力や、その問題を解決する力を養うことができました。また台湾への留学では、国際フォーラムに出席し、中国語で論文発表をしました。私はGCPを通して得たことを活かして、将来どんな子どもにも最高の教育ができる教師になりたいと思います。



庵下 さやか

経済学部経済学科2年

埼玉県 県立・浦和第一女子高等学校

GCPでは、実用的な英語力や論理的思考力を鍛え、志高い仲間とともに学び合うことができます。私は将来、食品ロス削減を通して発展途上国の子供たちの栄養失調・飢餓をなくすことに貢献していきたいと考えています。日本と世界へ貢献しゆく人材へと成長するため、経済学部での学びに加えて、GCPでも精一杯学んでまいります。



須藤 智也

理工学部情報システム工学科2年

東京都 私立・創価高等学校

日々理工学部の学びを進める中、インターネットやソフトウェアといった分野に惹かれ、将来は技術者として活躍しようと決めました。同時にGCPで日本や海外の現実を受け止める中で、単なる技術者としてでなく、世界市民として自分は何ができるのかを追求するようになりました。様々な専攻を持つ仲間が一箇所に集うこの場所で、自身を磨き成長していきます。



グローバル・シティズンシップ・プログラム

2021年度
募集要項

GLOBAL CITIZENSHIP PROGRAM

6学部生を対象とした
特別プログラム

プログラム受講料無料

海外研修奨学金給付

発行日：2020年10月1日

グローバル・シティズンシップ・プログラム事務局(総合学習支援オフィス学習支援課内)
ホームページ：<http://sgcp.soka.ac.jp> TEL:042-691-7009 FAX:042-691-6941 メールアドレス：sgcp@soka.ac.jp
お問い合わせ時間：月～金曜日 9:00～17:00 / 土曜日 9:00～12:00

卒業生が語るGCPの魅力

アカデミックな英語力が身に付く!



菅原 将

ハーバード大学メディカルスクール

工学部生命情報工学科 卒業

東京都 私立・開成高等学校 出身

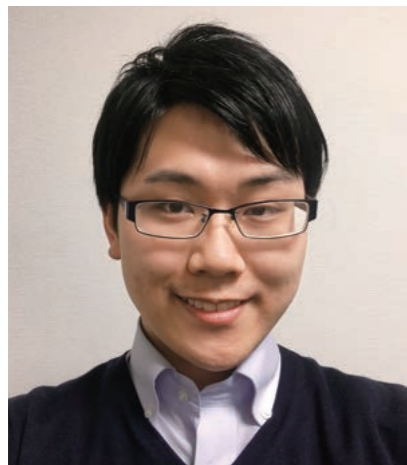
ジョンズ・ホプキンス大学大学院

博士課程 修了

私は現在、ハーバード大学メディカルスクールの研究機関で、免疫細胞の一つであるナチュラルキラー細胞の研究をしています。GCPではアカデミックな場面で使われる英語を徹底的に訓練したこと、プログラムゼミの授業を通して研究に必要な思考力を身につけられたおかげで、免疫学における名門校であるジョンズ・ホプキンス大学大学院の博士課程でも、授業を十分に理解し、研究もしっかりと進めることができました。また、GCPではたくさんのプレゼンテーションの機会があったおかげで、今の研究室のメンバーの中でプレゼンテーションが一番上手だと、教授から賞賛していただきました。

GCPの学びでは、様々な角度から研究者としての心構えを教えていただき、アカデミックな場面で使う英語を身に付けることができました。これらのおかげで、ジョンズ・ホプキンス大学大学院での博士号の取得、更にはハーバード大学メディカルスクールの研究機関への進路を獲得することができたと確信しています。皆さんも是非、GCPに入って、国際的に活躍したいとの思いを、実現してみようではありませんか。

論理的に考える力を鍛える!



三田部 直樹

富士通株式会社

工学部情報システム工学科 卒業

埼玉県 県立・熊谷高等学校 出身

創価大学大学院工学研究科

情報システム工学専攻 博士前期課程 修了

私は現在、最新のIT技術を活用し、お客様の要望を満たすITサービスの開発を行っています。急速に進化するITという領域の中で、国内外の人々の生活を支える技術者を目指し、毎日研鑽を続けています。グローバル化の流れも激しく、GCPで培った英語力は、会社で働くにあたって大きな武器となっています。英語力以外でも、GCPで学んだ多くのことが自身の成長の糧となっています。

例えば、GCPの講義では、社会でも生きる「インプットする力」と「アウトプットする力」を磨くことができました。重要な情報を見つけ出し、知識と結び付け、問題の理解を深めることができる「インプットする力」、また、伝えたい内容を明確にし、相手に納得してもらえるよう論理的に説明する「アウトプットする力」は、今の仕事でも、お客様の抱える問題を理解し、解決する提案を行っていく力の土台になりました。

GCPには目標に向かって全力で挑戦できる環境と、様々な夢を抱き、互いに鼓舞しあえる仲間、手厚くサポートして下さる教職員の方々があります。そこでの経験は必ず自信となり、今後の挑戦の大きな足がかりになると思います。実りの多い学生生活と未来の大きな目標に向けて、GCPに入って仲間たちと成長していきましょう!

夢を追い求め続ける!



黒川 真希

弁護士

法学部法律学科 卒業

東京都 私立・創価高等学校 出身

創価大学法科大学院 修了

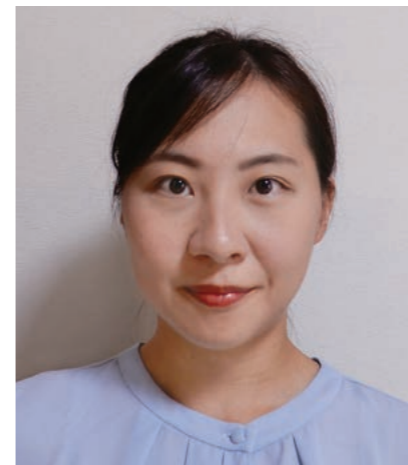
私は2019年より、弁護士として都内の法律事務所に勤務しています。一般民事事件や家事事件等を幅広く取り扱っていますが、裁判に関係する資料の翻訳など英語を使った業務も少なくありません。日頃の弁護士業務の中でも語学的重要性を痛感しており、今後は日本で弁護士経験を重ねた後、海外のロースクールへの留学を考えています。

GCPの魅力の一つは、自己の専門性に加えて語学力を向上させることのできる、学部横断型のプログラムであることです。私は国際的な仕事ができる弁護士になりたいと思い、GCPに入りました。入学当初は漠然とした目標でしたが、法学部に所属して司法試験合格に必要な専門の勉強をしながら、GCPの学びを通して英語力に加え、論理的思考力、文章表現力を向上させることができました。

法律と英語の勉強の両立は困難の連続でしたが、私が諦めずに続けることができたのは、私の夢を心から応援して下さったGCPの先生方、共に切磋琢磨した仲間のおかげであり、GCPには自分の可能性を広げることのできる最高の環境が整っています。

私自身、地球市民を目指し、法曹として、社会の役に立つ真の実力を付けていきたいと思っています。志ある皆様がGCPで自身の夢の実現に挑戦されることを心待ちにしています。

人生を変える人たちとの出会い!



若井 美咲

公立小学校教諭

教育学部教育学科 卒業

東京都 私立・創価高等学校 出身

私は大学入学当初、「海外の学校で働きたい!」という憧れをもっていました。教育学の勉強に加えて、GCPで集中的に語学と地球的課題についての調査などに励む中で、公教育の可能性や生活と文化と教育の繋がりに気づき、現在は、東京都の公立小学校教諭として働いています。

GCPでは自身の力を最大限に高めることができました。粘り強く大量の課題に取り組んだ経験は、知識やスキルだけでなく、「努力すれば、自分の可能性は無限に拓ける」という自信と確信になりました。また、物事についての背景や影響などを多面的に見て考えることができるようになり、視野が大きく広がりました。

そして何より、GCPを通して、縁する人を大切にすることを学びました。志高く多様な個性や視点を持ったGCPの仲間や先輩・後輩、どこまでもサポートして下さる教職員の皆さん、そして、ナイロビ大学への交換留学やTICADV 学生サミット、世界ユネスコ会議の学生ボランティアへの挑戦では、人生を変えるような人々との出会いがありました。GCPで学んだ学ぶ姿勢や、世界を意識した生活について、また個々のよさや探究心を育むことの大切さなどを、目の前の子どもたちに伝えていきたいと、日々奮闘しています。教育に貢献するという夢をもち、更に自分の可能性を広げていきたいと考えています。

語学力

将来どの領域に進んでも
役に立つ探究的学習で
英語力+思考力を磨く!

問題発見+解決+発信で
高度な英語力が
身につく!

英語圏で専門科目を
学べるレベルに
日本にいながら到達できる!

効率的な自己学習で
英語の基礎力を
徹底的に強化!

プログラム修了時の
TOEIC平均が
900点超!



吉井 太郎

法学部法律学科2年
東京都
私立・創価高等学校

TOEIC 960点
TOEFL-ITP 597点
TOEFL-iBT 98点

私は将来国際弁護士として世界を舞台に活躍することを目指し、GCPを志望しました。GCPでは「英語を学ぶ」と同時に、世界の諸問題について「英語を使って学ぶ」ことができます。英語の学習法は単語の覚え方一つをとっても様々な方法があり、絶対にこれが正しいという方法があるわけではないので、大学でいざ英語を本格的に勉強するといっても、私はどのように進めるのがよいか分からないという状態でした。

GCPでは、先生方が私たち一人一人に適した課題を出してくれるので、どの能力をどう磨いていけばいいかが明確になり、その努力の成果をテストの点数など目に見える形で実感することができました。また、GCPの英語の授業ではテストのための勉強だけではなく、ディスカッションやエッセイを通して英語で世界の問題を理解し、解決について考え、発信する力が求められます。授業で扱う内容は高度だったので、日本語であってもアイデアが浮かばず、浮かんたとしても英語で伝えることができない場面が多くありました。しかし、先生方が一人一人に対して分からない点について明確に説明してくれました。加えて、意識の高いGCPの仲間と日々励ましあって取り組めたからこそ、難しい課題をやり遂げることができました。



清洲 幸恵

法学部法律学科3年
福岡県
県立・小倉高等学校

TOEIC 925点
TOEFL-ITP 610点

GCPで志の高い仲間と切磋琢磨し、学びあうことで、自分の可能性を広げることができました。入学当初の私は、英語でアウトプットすることに慣れておらず、GCPの英語の授業で皆が流暢に話す中、全く発言できずにいました。共に学ぶ仲間の姿に励まされると同時に、自身の英語力の低さを痛感したことが、英語漬けの日々を送ってでも、高い英語力を身につけたいと決心するきっかけとなりました。その後は、GCPの課題に加えて、起床後の英文シャドーイングや移動中のオーディオブックのリスニングなど、積極的に英語に触れる機会を増やし、苦手分野の克服を目指しました。

すると、自身の英語力の向上を実感することができるようになり、例えば、初めは聞き取れなかった先生の英語での説明が、徐々に理解できるようになっていきました。加えて、数千語のエッセイも英語で書けるようになるなど、だんだんとできることが増え、英語が楽しいと思えるようになりました。さらなる英語力の向上のため、海外留学を目指すようになり、2年次には第1希望の留学先を勝ち取ることができました。

将来は「グローバル社会における地方創生」をテーマに、GCPで培った英語力や論理的思考力を活かし、より世界に開かれ、活発な交流をもった地域社会を実現することに貢献していきたいと考えています。

10期生からのメッセージ

齊藤 香那 法学部法律学科2年 東京都 私立・創価高等学校



私は、学部勉強に加えて特に英語を勉強したい、人の役に立つための力をつけたいとの思いでGCPを志望しました。毎日の授業や課題に挑戦していく中で、自分の英語力の無さや未熟さを突きつけられることもありましたが、しかしそのたびに、目標に向かってひたむきに努力し続ける仲間の姿、人間性輝く仲間の言葉が支えとなり、

厳しい勉学も乗り越えることができました。またGCPの先生方、先輩方には、勉強面、進路面、生活面、ありとあらゆる場面で激励していただきました。このような最高の環境で学びの大学生活を送らせていただいていることに感謝でいっぱいです。自分の可能性を信じ、ぜひ学びの多い学生生活を共に送りたいです!

プログラムゼミ

1年春学期 プログラムゼミⅠ キャリア&リーダーシップ

リーダーシップ力、ビジョンの形成力を磨く

●チュートリアルと併せて自身の最適なキャリア形成と進路を計画



1年秋学期 プログラムゼミⅡ ベーシックリサーチ

リサーチ力、プレゼンテーション力を磨く

●1年次2月に行う海外研修のなかでフィールド調査を実施



2年春学期 プログラムゼミⅢ ポリシースタディーズ

問題発見力、「チームで働く力」を磨く

●専門的な視点から問題を構造的・総合的に把握し、分析



2年秋学期 プログラムゼミⅣ グローバルイシューズ

問題解決力・提案力を磨く

●2年次12月に公開成果報告会を開催し、社会に対して提案



杉山 咲良

経済学部経済学科卒業
大阪府
私立・関西創価高等学校

インド・デリー大学セント・ステファン・カレッジ留学

インドの農村部で栄養改善プロジェクトを実現!

プログラムゼミを通して、自ら問いを立て、複眼的に考察することで課題を解決に導く力を養うことができました。特に集大成となるプログラムゼミⅣでは、グローバルな課題に対する解決策の提案に取り組み、課題が生じている原因分析と実現可能な施策を考案することが求められました。

私は5人のメンバーと、インド農村部における女性の貧血改善を目指しました。インドにおいて貧血が妊産婦死亡など命に関わる深刻な健康問題となっていることを知り、女性の健康を守りたいとの想いで取り組みました。リサーチを進める中で、女性の貧血罹患率が高い一方、政府による鉄分錠剤無料配布プログラムも、副作用により浸透していない現状が分かりました。そこで、より健康的かつ持続的な鉄分摂取方法として、鉄の塊を煮込むことで水に鉄分が溶け出すという先行研究に基づき、茄子の形をした鉄の塊「鉄なす」の活用を提案しました。その後、現地で活動するNPO法人協力の下、プロジェクトの実行に至り、最終的にインド・ウッタルプラデーシュ州アラハバード県にて、600世帯に鉄なすを販売することができました。

このように課題発見から解決までの一連のプロセスを経験できたのは、プログラムゼミでの実践的な思考の訓練と教授陣による丁寧なフィードバックによるものだと実感しています。

10期生からのメッセージ

仲 桜良 経済学部経済学科2年 大阪府 私立・関西創価高等学校



「本当に人間の尊厳を守った経済のあり方を考えていきたい」という大きな夢が私にはありますが、明確な将来のビジョンはまだ描けていません。だからこそ世界に通用する力をつけるため、その第一歩としてGCPに入りました。私以上に私を信じ、熱心に指導して下さる先生方がいて、互いの可能性を信じ切磋琢磨できる

仲間がいることが、これほど嬉しく、これほどモチベーションを上げてくれるのかとGCPで初めて実感しました。今はどれだけ未熟な自分でも、自身が大きく成長していく姿で、周囲をも鼓舞していけると確信しています。GCPで、皆さんと共に生涯の礎を築く挑戦ができることを楽しみにしています!

留学 交換留学・国際奨学金で 217名の留学が決定!

1期生から8期生までの186名の留学実績に加え、あらたに9期生21名(31名中)が、14か国・地域への交換留学生・国際奨学生に選ばれました。

マサチューセッツ大学ボストン校

TOEIC 965点(留学前)



川合 輝

法学部法律学科4年
東京都
私立・創価高等学校

更なる成長を目標に挑んだアメリカ留学では、2年間のGCP生活で身につけた力を存分に発揮し、授業や学外での諸活動に果敢に挑戦することができました。授業では国際関係論を中心に興味のある様々な分野を学びました。中には大学院生が履修する科目もありましたが、GCPで膨大な量の課題をやり抜く時間管理能力と探求心を培ったおかげで、多くの科目で最高評価を得ることができました。

授業以外では、117か国から400人が集まった世界銀行青年サミットの参加者に選ばれ、既にGCPの学際的な学びで関心を深めていた母子保健・栄養などのテーマについて、深く議論することができました。その他にも模擬国連大会に参加したり、総領事館でインターンをしたりと、自身の将来の進路として関心のある諸活動に全力で取り組み、成長を実感する留学生を送ることができました。将来は、国際政治の専門性とGCPや留学で磨いた語学力を武器に、世界の平和に貢献できる人材へと成長していきます。

清華大学

TOEIC 945点
漢語水平考試(HSK) 6級



原田 千尋

経済学部経済学科4年
大阪府
私立・関西創価高等学校

GCPで培った語学力や課題解決能力はもちろん、粘り強く徹底的に学ぶ姿勢で、充実した留学生活を送ることができました。

「日中の架け橋になりたい」との想いで中国・清華大学への交換留学を決意。中国語はゼロからの挑戦でしたが、GCPで鍛えた忍耐力を発揮し、1日10時間の勉強に挑戦しました。その結果、留学後半には中国語を母語とする学生が大半を占める上級クラスに入り、全科目で最優秀の成績を残すことができました。困難に直面した時、支えとなっていたのは、世界各地でがんばっているGCPの同期の存在でした。

勉学以外にも、中国のシリコンバレーと呼ばれる中間村でインターンシップに挑戦し、事業立ち上げに携わる機会を得ました。自らイベントを企画し、英語圏の留学生や経営者を巻き込んで運営を行った際は、プログラムゼミの授業で磨いた課題解決能力、コミュニケーション力を発揮して成功に導くことができました。

GCPでの学びがあったからこそ、高い志と自信を持って、留学中もさまざまな活動に挑戦でき、心から感謝しています。

国際会議 日本代表として国際会議に出席し、 世界に発信!

GCPで培った英語コミュニケーション力、課題設定、問題解決力を活かし、これまでにノーベル平和賞受賞者世界サミット、日米世界学生会議など数多くの国際会議に学生日本代表として参加しています。

「World Bank Youth Summit 2019」に参加

2019年12月2日～3日に米国で開催された「World Bank Youth Summit 2019」に、高橋知里さん(経済学部4年)が参加しました。このサミットは、世界銀行の主催により毎年開催されており、7回目となった今回のサミットには、約100か国・地域から約300名の青年が参加し、人々にとって住み良い持続的な都市づくりをどのように実現するかについて、講演やグループディスカッション、ワークショップが行われました。

高橋さんは、「サミットでは『誰も置き去りにしない』都市を実現する必要性を学びました。テクノロジーが発展してもなお人間の知恵と創造性が果たす役割は不可欠であり、私たち青年の行動によって生み出されるインパクトの大きさは計り知れないと実感しました。青年らしい大胆な発想と徹底的に当事者に寄り添う姿勢を大切にしながら、社会にプラスの変革をもたらすため今後も自らを磨き鍛えていきます」と語りました。



「World Bank Youth Summit 2019」に参加した高橋さん(右)

ハーバード大学主催の「HPAIR 2020」に3名が参加

米国ハーバード大学で2020年2月14日から17日の間に開催されたHPAIR(Harvard Project for Asian and International Relations)に、松山美華さん(法学部4年)、谷梅花さん、高橋知里さん(いずれも経済学部4年)が参加しました。ハーバード大学が主催するこの会議は、世界約90ヶ国・地域から大学生、社会人約300名が集まり、アジアにおける政治・経済・社会問題等について議論する場となっています。

参加した松山さんは、「会議では、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の政策立案チャレンジに参加しました。短い制限時間内でメキシコ・タイ・インドの青年と協力してテーマ決めや現状分析を行い、最後にはUNHCR副長官の前で、ロヒンギャ難民に対する国際教育カリキュラム導入の提案をプレゼンする機会を頂きました。GCPやアメリカ留学での学びが、今回の私の挑戦を後押ししてくれたことに感謝しています」と語っています。



「HPAIR 2020」の参加者と

内閣府青年国際交流事業に5名が参加

内閣府が主催する「国際社会青年育成事業」に大原友美さん、中間正代さん(いずれも法学部3年)、影山秀美さん(教育学部3年)、「日本・中国青年親善交流事業」に神田紗季さん(法学部3年)、「日本・韓国青年親善交流事業」に澤登良美さん(法学部3年)が参加しました。同事業は、海外の青年との交流を通して、相互の友好と理解を促進し、国際社会でリーダーシップを発揮できる青年を育成することを目的としています。

オーストラリア、リトアニアとの交流に参加した中間さんは、「国連本部や欧州委員会、移民の子どもが多く通う小学校などへの訪問や現地学生とのディスカッションを行いました。日本とは異なる価値観や社会について学び、『理想の多文化共生とは何か』に関して考えを深めることができました。これからは、誰も置き去りにされない理想の多文化共生社会の構築に貢献できる人材に成長していきます」と語っています。



内閣府青年国際交流事業の参加者と

10期生からのメッセージ

森 博明 経営学部経営学科2年 栃木県 県立・宇都宮高等学校



GCPは、英語力を筆頭に、論理的思考力や数理能力、リーダーシップ力など、多岐にわたるスキルを鍛えることができるプログラムです。また、スキルが向上するだけでなく、人間的に大きく成長できるプログラムだと実感しています。そして、GCPの何よりの魅力が、非常に恵まれた学習環境にあります。練達の教授陣、力ある

先輩方による万全のサポートに加え、切磋琢磨できる志高い仲間がいます。励まし合える同期とのつながりは、かけがえのない宝物であり、私自身、何度も助けられました。GCPでの挑戦の毎日、自らの可能性を広げられる大切な時間です。同じGCP生として、共に学び、成長できる日を心待ちにしています。

10期生からのメッセージ

青山 伸洋 文学部人間学科2年 大阪府 私立・関西創価高等学校



私は高校までの勉強以上に、大学ではさらに広く、深く、積極的に学びたいと思いました。そのため、学部横断型かつ向上心の高い人たちと切磋琢磨しあえる環境に身を投じたいと思い、このGCPに入りました。GCPでの学びを通し、私たちはどうして英語や哲学といったものを学ぶのか、という目的意識を持つことの重要性を、

自らの経験をもって認識することができました。私を含め、皆さんも自分の将来に対し、不安に思うことがたくさんあるかもしれません。しかし、その不安こそが向上心の表れであり、その不安と向き合うには学び続けることが一番です。この創価大学、またGCPで、ともに学びあいましょう。

進路

2020年3月までにGCP 7期生までの178名が卒業しました。進路先はプログラムゼミやチュートリアルを通して磨いたキャリア形成力と高い語学能力、専門性を活かし、国内外の大学院、公務員(国家・地方公務員)、企業等と各人の最適な進路選択をしています。



広島大学教育ビジョン研究センター 広島大学大学院教育学研究科 博士後期課程修了 博士(教育学)

宮本 勇一 教育学部児童教育学科卒業 東京都 私立・創価高等学校

私は現在、カリキュラムと教育方法に関する研究をしています。学校は何を学ぶ場所か、どのような授業がよい授業かについて、日独を中心に、歴史的知見を掘り起こし、かつ学校の先生と話し合いながら研究・開発をしています。研究生活は、GCPでの学びをフル活用する日々です。徹底的に磨いた語学力が、海外の研究者との研究交流上の力強い脚力になったのは言うまでもありません。GCPで取り組む問題解決学習とあいまって、物事を鋭く見抜く批判的思考力、自分の考えを明確に示す論理力や構想力の鍛錬は研究上の骨肉となっています。何よりもGCPの友人から得る触発は非常に大きいです。学校教育が大きく変わる今、子どものために学校がどうあるべきかを、教育学の哲理に根ざして世界に発信していく研究を進めたいと思います。



イリノイ大学シカゴ校大学院 生物科学研究科

鈴木 伸子 工学部生命情報工学科卒業 東京都 私立・創価高等学校

現在、イリノイ大学シカゴ校大学院博士課程で神経生物学を学び、神経細胞の成長・再生・変性のメカニズムを研究しています。私は学部間に留学しなかったため、大学院留学が初めての海外生活となりました。それでも、GCPで徹底して英語力や論理的思考力が鍛えられたおかげで、ディスカッションやプレゼンテーション、ライティングなど、全ての場面で現地の学生に負けないパフォーマンスを発揮できています。またGCPでは、限られた時間と自分の持つ能力を最大限に活かして、可能な限り質の高い成果を上げる力も培うことができました。これはあらゆる場面で自身の支えとなり、様々な課題を乗り越える強さに繋がっています。今後も、研究分野の発展、そして願わくは病気の治療改善に貢献することができるよう、地道に研究に励む決意です。



外務省(専門職)

川畑 暁絵 法学部法律学科卒業 東京都 私立・創価高等学校

私は現在、中国の在重慶日本国総領事館で勤務しています。具体的には、東京の本省へ現地情勢を報告したり、日本語作文大会など広報文化活動を実施したり、日本から当地を訪問する要人の受け入れを行うなど、政務、広報文化、総務などの業務を担当しています。業務内容は様々ですが、その基本的な部分で、GCPでの学びが生きています。例えば、当地で日本のイベント一つ企画するにしても、当地の情勢やニーズを分析し、可能な範囲でより効果的な選択肢を選ぶ必要がありますが、プログラムゼミなどGCPの授業を通して、これらの作業に求められる情報収集力や論理的思考力の基礎を築くことができました。重慶市を含む中国の西南地域は、邦人数も少なく、現地の方が生の日本に触れる機会もまだ少ないので、まずは、自分が今いるこの地域で、さらに日中間の交流を拡大できるよう尽力し、その中で「日中関係のスペシャリストになる」との目標に向かって、一歩ずつ進んでいきます。



農林水産省(総合職)

小川 正樹 経済学部経済学科卒業 大阪府 私立・関西創価高等学校

私は国家公務員になって以来、日本の豊かな食を守るための産業政策や国際交渉などに携わってきました。現在は内閣官房に出向し、海外政府との通商交渉をリードする部署に在籍しています。米国との貿易協定の交渉段階では、数度にわたりワシントンD.C.に出張し、国益と国益とがぶつかり合う外交現場に触れるなど、大学入学前には想像もできなかった刺激的な日々を過ごしています。GCPで培った英語力、論理的思考力などの実践的な能力は、海外関係機関との調整や政策立案の基となる資料作成など、日々の業務の上でも非常に役に立っています。そして仕事で壁にぶつかる度、GCPでひたむきに努力した日々を思い出し、自分自身を鼓舞しています。今後も国家公務員として、行政の中枢を担い、社会の繁栄に貢献できるよう、力をつけていきたいと考えています。



PwCコンサルティング合同会社

永峰 正一 経営学部経営学科卒業 大阪府 府立・高石高等学校

私は「世界を変えられる人材」になるため、まずはコンサルタントとしてキャリアを積み、その後、MBAが国際関係の分野で大学院進学を考えています。GCPの2年間では、社会人として必須な論理的思考力、数値処理能力、知的体力等、社会で結果を出すために必要な力が鍛えられました。また、私がGCPを通して一番得たものは、困難に直面したときの人間としてのタフさです。プログラムは決して楽なものではありませんでしたが、自身の目標に向かって全力で挑戦する楽しさを知ることができました。入学時には想像もできなかった今の自分になったのは、GCPで関わってくださった先輩方、教職員の方々のおかげだと思っています。今までお世話になった人たちに恩返しするためにも、GCPで学んだ「困難に挑戦する勇気」を忘れずに、社会で実証を示していきます。



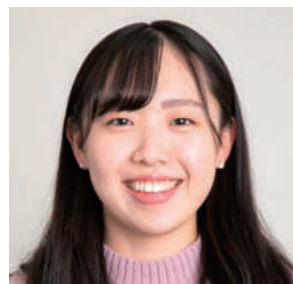
株式会社STYZ / 一般社団法人ELAB 理事

繋 奏太郎 法学部法律学科卒業 青森県 県立・青森南高等学校

私は現在、非営利団体(NPO)のための寄付調達をサポートする社会貢献企業に勤め、1000を超えるNPOの寄付調達の戦略構築とマーケティングを担当しています。人々からの寄付という行為を通して、社会課題を解決する後押しを行い、人と社会をつなぐことで、私たちが直面する社会課題について人々の理解を深めることを目指しています。GCPの学びを通して、常に誰のために、何のために仕事をするのかを問い続けること、そして、優秀な同期、先輩が多くいる中で、自分はどういうバリューを社会に提供できるかを考え続けました。何より、様々な社会課題がある中で、誰かではなく自分が担わなければいけないという責任を学ばせてもらいました。それらすべてが今の自分を築きあげてきました。これからは、社会にインパクトを残していけるよう、さらに自分を磨いていきたいと思っています。

10期生からのメッセージ

内生 蔵 樹里 教育学部教育学科2年 東京都 私立・創価高等学校



将来、教育開発に携わりたいと考えていた私は、学部で専門性を磨きながら、英語を徹底的に学び、幅広い知識に触れる機会に恵まれたGCPが最も適していると思い、応募しました。一年を通して英語のスコアが伸びただけでなく、実践的な英語力を鍛えられたことが何よりも嬉しかったです。またGCPの授業全体を通して

学問に向き合う姿勢を学ぶことができ、学部での学びに大いに活かすことができている。GCPと学部の授業の両立に悩むこともありましたが、友人たちや先輩方、教員の方々の支えのおかげで乗り越えることができました。各々の夢に向かって自身の限界に挑戦できるこの環境で、共に大成長の学生生活を送りましょう。

10期生からのメッセージ

梶 貴晴 理工学部共生創造理工学科2年 富山県 県立・高岡高等学校



私は家族に勧められ、GCPに応募しました。第1希望の大学は残念ながら不合格でしたが、GCPの1次試験に通過したため、創価大学に進学し、GCPに入ろうと決意しました。1年間の学びを振り返り、その選択は正しかったと確信しています。GCPの勉強は大変ですが、そのおかげで英語だけでなく論理性やリサーチ能力が身に

つけられます。そして何よりも、日々切磋琢磨し合いつつも笑い合える最高の友人に出会うことができ、辛い時や、苦しかった時はお互いに励まし合うことができます。受験生の皆さん、大学生活を完全燃焼させたい方は、ぜひGCPに応募することをお勧めします。

GCPの5大特徴

1 それぞれの学部で所属したまま参加できる学部横断型プログラム

GCPは経済・経営・法・文・教育・理工の6学部の新生を対象に学生を選抜します。各学部のGCP担当教員を中心に、創価大学全体でGCP生をサポートするとともに、様々な学部の学生とともに学ぶことで、多様性が育まれます。

2 徹底した英語教育で世界に通用する英語力を養成、海外研修は旅費・研修費全額支給で全員が参加

GCP独自の2年間、週4回の英語授業(2科目×週2回)で、英語圏の海外大学院留学に要求される英語の読解力・ライティング能力と、国内外のグローバル企業や国際機関等への就職に求められる高度な英語コミュニケーション力(論理的思考力・ディスカッション力・プレゼンテーション力)の習得を目指します。

またGCP生は旅費・研修費支給で、GCP生のみを対象とした海外短期研修に参加できます。開発途上国を訪問し、政治・経済・環境・教育など、開発途上国が抱える様々な問題についての講義を英語で受け、現地の学校・施設への訪問を通して、世界の現状について理解を深めます。

3 社会システムを読み解くー数理能力をトレーニングー

現代の国際社会で活躍するためには、日々蓄積される多種多様で大量のデータを効率的かつスピーディーに処理・分析・活用できる能力が不可欠です。GCPの「社会システム・ソリューション」の授業を通して、社会の現状を把握し、意思決定を行うために必要なデータ分析能力や、日々激しく変化する社会システムに立ち向かうために必要な、種々の問題発見とその解決方法に関する、数理学的基礎知識を修得します。

4 独自ゼミでグローバルに活躍する人材を育成

GCP独自の「プログラムゼミ」で、社会の様々な問題に取り組む力を養います。(→詳細は5ページ)

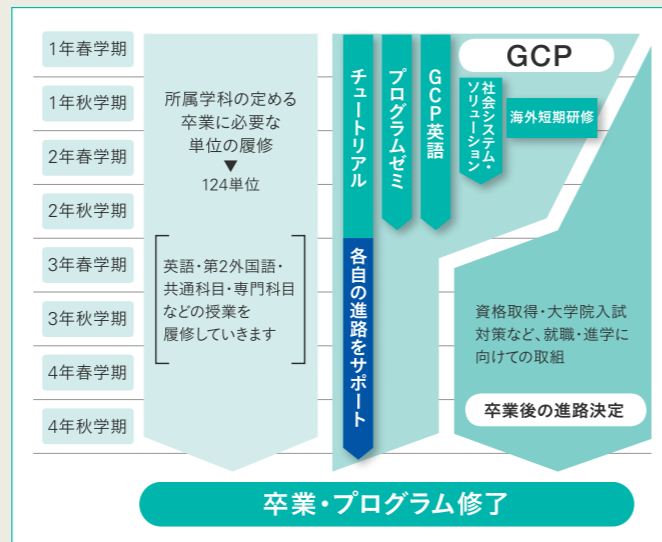
5 少人数制によるきめ細かい指導と「建学の精神」の深化

学生一人ひとりの専門や希望進路に最も適した教員が、学生との少人数または一对一の懇談を通してきめ細かく個別指導を行い、学生が希望の進路を勝ち取るようサポートします。

GCP入学から卒業まで

GCPでは、学生の所属する6学部(経済・経営・法・文・教育・理工)でそれぞれ定める卒業に必要な単位を修得しながら、並行して本プログラムの科目を履修します。プログラム修了に必要な単位(32単位)をすべて習得すると、卒業時に、所属学部の学士号に加えて、GCP修了証が授与されます。

※卒業要件(習得科目、単位数)は学部により異なります。
 ※所属学部の定める卒業要件では、所定の単位の取得のほか、通算GPA(全科目の評定平均)が2.0以上であることが必要です。
 ※GCP科目の一部は、各学部で定める卒業要件の科目の単位数に充当することが可能です。
 ※一部のGCP科目については、GCP以外の所定の科目と振り替えが可能です。



教育職員免許状等の取得について

各学部を卒業することで与えられる資格(教育職員免許状等)を得るためには、各学部所定の科目を履修する必要があります。GCP科目と並行してこれらの単位を修得していくため、場合によっては、教育職員免許状取得に必要な単位修得に、5年以上かかることがあります。

2019年度 GCP海外研修報告

世界へ雄飛する第一歩 実践的英語力とアカデミック・スキルそして多様性を学ぶ

GCPでは、1年次終了時に海外短期研修を実施します(旅費・研修費支給)。10期生は、2020年2月11日より25日までの約2週間、フィリピンのキャピトル大学、イースト大学、アジア開発銀行等で研修を行いました。

生きた英語を学び、即戦力の英語コミュニケーション力を鍛える

海外研修は、実践的な英語コミュニケーション力を磨く絶好の機会です。今回の研修では、GCP生はキャピトル大学やアジア開発銀行などにおいて、フィリピンの諸事情やグローバルゼーション、開発途上国の問題に関する講義を英語で受講し、講義終了後には、専門的な分野に関する活発な質疑が繰り広げられました。特にキャピトル大学では、現地の指導教員や学生と、英語によるディスカッションを行い、質問調査やアンケートの結果から得られたリサーチ結果を、英語で発表しました。GCP1年間を通して身につけた英語力をさらに磨き、コミュニケーション力が一段と向上する研修となりました。



フィールド・リサーチを通し、アカデミック・スキルを高める

フィールド・リサーチは、1年次後期のプログラムゼミと連動し、アカデミック・スキルの向上を目指します。プログラムゼミでは、フィリピンの経済・文化・保健・教育・公共政策などの分野に関する課題テーマを設定し、事前に資料収集と分析を行いました。今回の研修は、日本での事前調査に基づき、企業や役所、病院、学校などで得られた調査結果から、現実的視点に立脚した分析を行いました。調査や分析に先立ち、調査手法とデータ分析、プレゼンテーションに関する講義を受け、各リサーチグループを現地指導教員がメンターとしてサポートし、より一段と専門的かつ高度なリサーチスキルを修得することができました。



文化の多様性を学び、国際的な教養を修得する

異なる文化を理解し、尊重することは、地球市民にとって不可欠の資質の一つです。グローバル化が進む近年、様々な分野において国や地域間の交流が求められ、異文化と触れ合う機会が増えています。7,100もの島々から成り立ち、100を超える言語が話されるフィリピンは、多様性にあふれた国です。GCP生は、現地の学生との交流や各種施設の視察を通し、フィリピンの文化とその文化を形成した歴史を学びました。異なる民族、宗教、文化、伝統と触れ合い、国や地域の持つ多様性を知り、その多様性を尊重する重要性を学び、地球市民に求められる素養を磨きました。



研修参加者の声

異 有里紗 経済学部経済学科2年 大阪府 私立・関西創価高等学校



私たち10期生は、全員が主体者であるという自覚に立ち、一瞬も無駄にしないとの思いで研修に臨みました。現地調査では道路渋滞による緊急搬送遅延、教育における男女格差、農業用水の効率的な分配などについてデータ分析、インタビュー、アンケートを行う中で、途上国で生き抜く人々の知恵と生命力に感銘を受け、全てのことに価値を創造することの重要性を実感しました。そして、これらの問題への解決策を見出すグループワークの経験は、国際貢献しゆくグローバルリーダーとなるための大きな一歩となりました。また、ごみ処理場の視察や貧困地域の学校、NGOの視察をさせていただけたことは、途上国と日本の架け橋になるという自身の夢を実現させるためにこれから何をすべきかを改めて考えるきっかけとなりました。難しい状況の中、真心で迎えてくださった現地の方々へ恩返しをするためにも、より一層勉学に力を入れ、生命の尊厳を守り抜く世界市民へと成長してまいります。

Q & A ① 国公立大学と悩んでいます...

GCPでは、国公立大学に合格しながら、GCPに入った学生が多くいます。その学生らは、創価大学の建学の精神に共感し、学生が生き生きと学ぶ姿を感じ創価大学に進学しました。その中でもGCPを選んだ理由は、高いレベルの勉学に挑戦できることを挙げています。学部横断型のGCPは、学部を超えて優秀な学生と励まし、競い合いながら勉学に取り組むことができます。英語授業では、習熟度に合わせてクラス分けを行い、きめ細かな指導

により確実に英語実践力を高めることができます。国立大学に合格したある学生は、「世界に貢献する力をつけるためにGCPに入りました。GCPは、実力を鍛える理想的な環境が整っており、尊敬できる生涯の友人に出会うことができます。高い志のあるGCP生との出会いが、私にこの上ない成長の機会を与えてくれました」とGCPの魅力を語っています。

GCP選抜要項

※以下は2020年9月1日時点の情報です。

出願資格・募集人員

出願資格

2021年度入学試験(PASCAL入試・公募推薦入試・指定校推薦入試・創価学園推薦入試・一般選抜A(大学入学共通テスト利用入試)[前期3科目と4科目方式]・一般選抜B(ハイブリッド方式)・一般選抜C(本学独自問題[2科目方式と3科目方式]))に合格し、経済・経営・法・文・教育・理工の6学部いずれかに入学予定で、GCPの受講を希望するもの。

※看護学部と国際教養学部は、出願・選抜の対象ではありません。対象の入試区分・学部以外で入学手続きをした場合は、選抜の対象外となります。
 ※GCPは1年次から4年次までの一貫プログラムです。入学時以外の途中年次からの受講開始はできません。
 ※選抜費用や入学後の受講費用はかかりません。ただし、GCP英語の一環としてTOEFL等の外部試験を受検する場合があります。(自己負担/1回3,000円～4,500円)
 ※出願資格について不明な点がある場合は、事前にGCP事務室(TEL:042-691-7009 FAX:042-691-6941 e-mail:sgcp@soka.ac.jp 月～金曜日9:00～17:00・土曜日9:00～12:00)にお問い合わせください。

募集人員

約30名(合格者が募集人員に満たない場合でも、追加募集は行いません)

選抜方法・日程

GCPの選抜は、以下の2段階で行います。

①第1次選抜

エントリーシート、入学試験の成績、入試出願時に提出された調査書に基づき、書類審査を行います。

ア. 本学入試合格者向けに開設される「入学支援ポータルサイト」より、エントリーシート等の必要書類を所定の期日までに提出ください。

イ. 第1次選抜の合格者は、約70名とします。

ウ. 第1次選抜の結果は、2021年3月中旬ごろに通知します。その際、第1次合格者には、第2次選抜のスケジュール等も送付します。

②第2次選抜

第1次選抜後に小論文試験・面接試験・英語ライティング試験を行います。さらに入学前後に全新入生に対して実施されるプレイズメントテスト(基礎学力判定テスト[数学・国語])・TOEIC-IPテストの結果も含めた総合評価により選抜し、受講者(約30名)を決定します。

入試区分	PASCAL	公募推薦	指定校推薦	創価学園推薦	一般選抜A (大学入学共通テスト利用) 前期	一般選抜B (ハイブリッド方式)	一般選抜C (本学独自問題)
エントリーシート 締切 (第1次選抜)	2020年12月18日(金)			2021年 2月5日(金)	2021年3月1日(月)		
第1次選抜 合格発表	2021年3月中旬ごろ、合否を通知						
第2次選抜	2021年3月下旬						
プレイズメント テスト	2021年3月下旬～4月上旬						
第2次選抜 合格発表	2021年4月上旬ごろ、合否を通知						

※変更の可能性がありますので、最新の情報はホームページをご確認ください。

Q & A ② 課外活動との両立に関して

GCPの授業は、月曜日から金曜日までの5時間または6時間限に行っています。またそれぞれの授業の課題も課されるため、授業以外の時間も課題に取り組むことが求められます。そのため、GCP授業のある1年生と2年生の期間は、放課後のクラブ等の課外活動には参加することができません。

GCPの2年間で、実践的な英語力や論理的思考力、問題解決力などのアカデミック・スキルを習得することにより、夏休みなどの休暇

期間や3年次以降には、学内外の様々な活動に取り組むことができます。これまでもGCP生の多くが、国際交流事業や国際会議などに日本代表として参加してきました。そこでは、GCPで磨いた英語力やアカデミック・スキル、リーダーシップ力を存分に発揮しています。また、学内でも、GCPでの学びを活かして、将来のキャリアにつながる活動に挑戦しています。

教員からのメッセージ



GCPディレクター
佐々木 諭

看護学部教授。創価大学法学部卒業、新潟大学大学院歯学総合研究科博士課程修了、博士(医学)。GCPでは、プログラムゼミI、II、チュートリアルを担当。専門は国際保健学、公衆衛生学。10年間にわたり国際協力機構(JICA)専門家等としてアフリカの国際協力事業に従事。

GCPは、世界市民を目指す高い志と情熱を持った学生のためのプログラムです。GCPの学びを通して、高い英語コミュニケーション力、論理的思考力、問題解決力など世界に通用する力を習得することができます。また、日々の学びの挑戦は、目標を勝ち取る力、壁を乗り越える力、自分を信じる力、人に尽くしていく力を養ってくれます。共に励ましあい、支えあい、競い合いながら、多くのGCP生が目標を勝ち取り、社会に出てもお夢に向かって挑戦を続けています。



GCPコーディネーター
井田 旬一

理工学部教授。創価大学工学部卒業、博士(工学)。専門は環境化学工学、材料科学。文部科学省「低炭素社会形成のための生物・熱化学プロセスによるバイオマス資源循環利活用技術の研究開発」等の多くの研究プロジェクトに従事。GCPではチュートリアルを担当。

創価大学のミッションステートメントに「求められるべきは、真の『教養』をそなえた地球市民としての創造的人間」とありますが、GCPはまさにこれを具現化する人材の育成を目指して参りました。開設から10年が経ちましたが、卒業生は各分野で大きく活躍し始めております。世界市民としての高い志に、世界に通用する実力を併せ持ったGCP生は、ますます混迷を深める現代社会でこれまで以上に求められる人材となっていくと思います。是非、多くの後輩の皆さんに続いて頂ければと思います。



GCPコーディネーター
勘坂 泉

ワールドランゲージセンター講師。教育学修士。英文学修士。イギリスで難民の英語習得支援および就業支援、カンボジアで教育支援などに従事。GCPでは英語科目Academic Foundations for Global Citizenship I・II、海外研修等を担当。

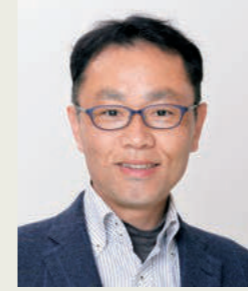
GCPでは国際機関や国内外の一流企業、海外大学院等で必要とされる英語運用能力の習得を目指し、週4日の集中プログラムで英語の基礎力を徹底的に鍛え、リサーチやディスカッションを通して総合的に学びます。また、2週間の海外研修に全員が参加し、環境、教育、経済、行政、保健医療、文化などについてフィールドワークを行い、その結果を現地の教授陣の前で発表するなど、英語を使って実践的に学びます。世界のさまざまな課題の解決に寄与するグローバルリーダーを志す皆さんのご応募をお待ちしています。



Richmond Stroupe

ワールドランゲージセンター教授。UNDP(国連開発計画)によるタイの小学校への英語教育普及事業など数多くの国際プロジェクトに参加し、東南アジア各国の英語教育普及および教師教育に尽力。GCPではEAP for Global Citizenship I/IIを担当。

The Global Citizenship Program is an exceptional opportunity for students to achieve high academic standards with the support of faculty members, peers, and the university. With a global focus on development issues, students are encouraged to apply concepts and theories from their own fields of study to address challenging social issues that exist in both domestic and international contexts. As a university faculty member that teaches on this program, I welcome the opportunity to challenge, encourage and support students as they achieve and exceed goals they have set for themselves. Through collaboration with classmates and faculty members who have extensive international experience, students are able to develop a global world view and a sense of citizenship in a global society. For students who are excited about this opportunity, this is an experience unlike any other at the university, and we look forward to working with you.



篠宮 紀彦

理工学部教授・情報ネットワークセンター長。創価大学工学部卒業、博士(工学)。GCPでは社会システムソリューションII、チュートリアルを担当。専門は情報通信ネットワーク設計理論。(株)富士通研究所にて、北米のインターネットバックボーンの研究開発に従事。

我々の生活を支える様々なシステムは日々複雑さを増しています。また、全てのシステム内では膨大な量の情報が常に行き交っています。GCPでは、システム分析、統計データ処理や数理工学的な手法を学び、困難な問題に対する観察力と解決法を考える力を養います。この能力は各学部の専門性をこえて普遍的に必要とされます。広い視野で社会を俯瞰し、将来、国際社会を舞台に活躍できるリーダーを育成しています。



富岡 比呂子

教育学部准教授。創価大学教育学部卒業、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)大学院修了。教育学博士(Ph.D)。専門は自己概念・自尊心の発達、初等教育の日米比較。GCPではチュートリアルを担当。

GCPの学部別の週1回のチュートリアルでは、所属学部における専門性も高めることが可能です。教育学部では、その週の学部とGCPの科目の進捗状況や生活面のふりかえりを行うことで、自身の目標設定を明確にするだけでなく、教育学関連の書籍についてのディスカッションを通して専門的な視野も広げていくことができます。先輩のGCP生との交流の機会を持ち、学部4年間を通したロールモデルに身近にふれることもできます。

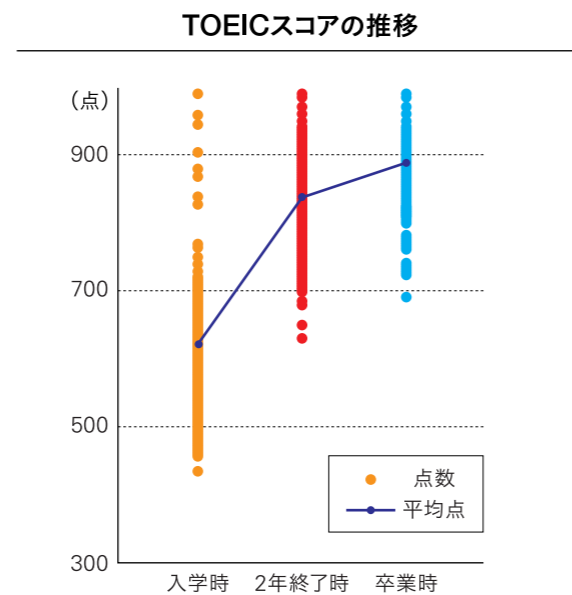
データで見るGCP

GCPで鍛える英語力

GCPの2年間のカリキュラムによって育成する能力は、アカデミックな論理的思考力・問題解決力、数理統計処理能力そして実践的な英語力となります。2年間の短期間で学生の英語力を徹底して伸ばすため、予習、復習を含めた授業課題は総じて膨大なものとなっています。学生は寸暇を惜しんで英語の勉強に取り組み、2年間で顕著な英語力の向上を示しています。

英語力の指標として、例えばTOEICのスコアを見てみましょう。2018年度までに卒業したGCP生1期生(2010年度入学)から5期生(2014年度入学)の148名の学生のTOEICスコアは2年間で平均231点上昇しました。もっともスコアが伸びた学生は、入学時より415点アップしています。全体では約8割の学生が800点を超え、3割が900点に達しました。

2年間のプログラム終了後の英語力の伸びと比べてみると、3年次以降から卒業までに向上したスコアの平均点は39点ですので、学生にとって2年間のGCPの学びが、英語力の修得にいかに大きな影響を与えていたかを示しています。



GCP開始時から2年終了時、卒業時の最高スコアの変化。入学時から2年終了時に、スコアの分布と平均点はいずれも大幅に上昇しています。

世界に羽ばたくGCP生

GCPの教育目標の一つは、異なる文化や価値観などを理解し、尊重することのできる世界市民の育成にあります。学生はGCPの授業を通して、視野を広げ、世界への関心と興味を一層深めていきます。特にGCPでは、1年次の春季休暇に、GCP生全員が参加する2週間の海外研修を実施しています。1年次での海外経験は、GCP生の大きな刺激となり、長期の留学に挑戦する意欲に繋がっています。

1期生から8期生(2017年度入学)までのGCP生233人のうち、留学を経験した学生(留学中を含む)は186人、実に8割の学生が留学しています。留学先も英語圏にとどまらず、多様な地域、国に留学しており、29カ国55大学に及んでいます。

GCP生は留学中も積極的に現地での学びに挑戦しています。ケニア・ナイロビ大学に留学した学生は、留学中に現地企業のインターンシップを行い、プロジェクトの責任者を任せられました。「GCPでの学びは、英語力等のスキルだけでなく、留学中での様々な経験に挑戦する志につながっている」と語っています。

◆北南米・欧州

アメリカ: デラウェア大学、ジョージ・メイソン大学、マサチューセッツ州立大学、ジョージア州立大学、ケネソー州立大学、メアリー・ボールドウィン大学、アメリカ創価大学、カナダ: プリンズ・エドワード・アイランド大学、カルガリー大学、ブラジル: パラナ連邦大学、フランス: ノバンシア大学、オーストラリア: クラークソン大学、イギリス: ウェストミンスター大学、クイーンズ大学ベルファスト校、バーミンガム大学、ブルガリア: ソフィア大学、ロシア: ウラジオストク極東連邦大学、チェコ: マサリク大学、デンマーク: デンマーク南大学、リトアニア: ミコラス・ロメリス大学

◆アジア・オセアニア

中国: 北京大学、清華大学、厦門大学、上海大学、武漢大学、吉林大学、台湾: 国立政治大学、中国文化大学、香港: 香港大学、香港中文大学、韓国: 慶熙大学、成均館大学、フィリピン: フィリピン大学、デ・ラ・サール大学、アテネオ大学、イースト大学、タイ: タマサート大学、チュラロンコン大学、マヒドン大学、インドネシア: インドネシア大学、シンガポール: 南洋理工大學、マカオ: マカオ大学、マレーシア: マラヤ大学、インド: デリー大学、インド池田女子大学、ネパール: トリバン大学、ベトナム: ハノイ国家大学、オーストラリア: シドニー大学、ラ・トロップ大学、グリフィス大学、ブルネイ: ブルネイ・ダルサラーム大学

◆アフリカ

ケニア: ナイロビ大学、アメリカ国際大学、ザンビア: ザンビア大学、南アフリカ: ウィットウォーターズランド大学

国際会議等に日本代表として参加

GCPの6割の学生が在学中に、国際会議や国際学会に参加しています。GCPで習得した英語力や論理的な思考力、リーダーシップ力を試すために多くの学生が学外の“他流試合”に挑戦しています。国際会議の中には、選考の際に英文エッセイやインタビューなど高い基準を定めている会議も多くあります。

世界の青年との交流は、世界に友情を広めるだけでなく、物事を考える新たな視座に気づき、自身の課題を見つける機会ともなっています。そして、世界の青年の知性と人格に触れることで、一層の学びの意欲を高めています。

世界銀行が主催するユースサミットに参加した学生は、「勇気を出して自分の意見を主張し、周りから賛同を得られた経験は大きな自信となりました。GCP2年間の挑戦が自身の可能性を大きく広げてくれました」と語っています。また、内閣府事業に参加した学生は、「GCPのおかげで、実りある学びを得ることができました。『何のため』という原点に立ち返り、より一層勉学に励んでいきます」と決意を述べています。

GCP生が参加した主な国際会議等

◆日本政府主催事業

内閣府国際社会青年育成事業、内閣府日本・中国青年親善交流事業、内閣府日本・韓国青年親善交流事業、内閣府「世界青年の船」事業、外務省対日理解促進交流プログラム

◆国際機関主催事業

国際連合政治・平和構築局国際ワークショップ、国連持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム、国連『文明の同盟』グローバルフォーラム、国連防災世界会議、世界銀行ユースサミット、日中韓ユースフォーラム、COP学生会議、アジア開発銀行年次総会アジアユースフォーラム

◆その他国際会議

ノーベル平和賞受賞者世界サミット、G8世界サミット、Girls20サミット、世界大学総長協会総会、国際開発ユースフォーラム、日米世界学生会議、日露学生フォーラム、日中学生会議、東北アジア青年フォーラム、日本アフリカ学生サミット、ハーバードアジア国際関係プロジェクト、STeLA Leadership Forum、TOMODACHI MetLife Women's Leadership プログラム、Peace Conference of Youth

多様な学生の進路

GCPと学部の専門性の学びを活かし、GCP生は、多様な進路を勝ち取っています。卒業生の25%にあたる4人に1人が国内外の大学院に進学を果たし、その他、外資系企業や国内主要企業への就職、公務員、教員等の採用試験に合格するなど実に多彩です。

海外大学院は、ジョンズ・ホプキンス大学やオックスフォード大学など世界トップレベルの大学院をはじめ、コスタリカにある国連平和大学大学院のデュアル・ディグリープログラムなど、卒業生は将来の夢を目指して専門的な学びに挑戦しています。

6期生までの卒業生からは、外務省専門職7名、司法試験合格3名、公認会計士2名を輩出し、都道府県庁の採用試験にも毎年GCP生が合格しています。

企業就職は、外資系や国内の東証一部上場企業の採用も多く、長期留学や国際会議への参加などの学外での積極的な活動が評価されています。卒業生のこれからの更なる活躍を期待しています。

◆海外大学院

ジョンズ・ホプキンス大学大学院、南カリフォルニア大学大学院、イリノイ大学大学院、モントレー国際大学大学院、オックスフォード大学大学院、サセックス大学大学院、ロンドン大学大学院、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、ストックホルム大学大学院、オスロ大学大学院、ハイデルブルグ大学大学院、シドニー大学大学院、国連平和大学大学院、他

◆国内大学院

東京大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、北海道大学大学院、東京工業大学大学院、広島大学大学院、一橋大学大学院、沖縄科学技術大学院大学、創価大学大学院、他

◆企業就職

ゴールドマン・サックス証券、アクセンチュア、日本IBM、デロイト・トーマツコンサルティング、プライスウォーターハウスクーパース、日本マイクロソフト、P&G、ファイザー、ジョンソン・エンド・ジョンソン、三菱UFJ銀行、三井物産、日立製作所、パナソニック、富士通、ソニー、三菱電機、味の素、日産自動車、三菱自動車、出光興産、日本電波工業、他

◆公務員等

農林水産省、厚生労働省、外務省(専門職)、大阪府庁、神奈川県庁、富山県庁、横浜市役所、他